

だ
い
あ
ろ
く
ぐ

東京彩人記

昨年7月に国の「放課後子ども総合プラン」が策定され、今年4月から子ども・子育て支援新制度」がスタートした。共働き世帯が増加する中、小学生の放課後を豊かにするには……。2005年から小学校を舞台にさまざまなプログラムを展開している「放課後NPOアフタースクール」代表理事の平岩国泰さん(41)に聞いた。

【山本浩資】

—アフタースクールを始めたきっかけを教えてください。

04年に第一子が生まれましたが、そのころ子供の連れ去り事件が相次いでいました。調べると約6割が午後3時から午後6時ごろの発生で、放課後が危ないと気づいたので。そう思って見渡すと、公園に子供はいない、集まってもゲームをしている、遅い時間にかばんを持った子が目につくなど、それまで見えていなかった景色が見えるよ

うになりました。

—子供を取り巻く環境が変わってきているということですね。

30歳になり、何か社会の役に立ちたいと考えていた時。友人から米国でアフタースクールがあると聞き、「これだ」と思いました。放課後に学校を利用し、地域の人が「市民先生」になり、子供とつながっている。放課後の子供の居場所を作ろうと決めました。和食職人など市民先生はすぐに見つかりましたが、小学校に

放課後NPOアフタースクール代表理事 平岩 国泰さん(41)



ひらいわ・くにやす 港区生まれで世田谷区在住。05年に始めた「放課後NPOアフタースクール」はこれまでに小学校11校で開校。300種類以上のプログラムを50校に提供している。13年から文部科学省中央教育審議会の専門委員。

子供の個性伸ばす居場所

電話すると断られてしまい、05年に地元・世田谷の公民館で始めました。

—ボランティアで始めたのですか？

デパートの会社に勤めていて、水曜と日曜が休みで

11年に会社を退職してアフタースクールに専念することになりました。

—アフタースクールの特徴は？

一番の特徴は学校を使っているところです。料理、

外の第三の場として、生きがいにもなっています。

—やってよかったと感じるときは？

子供が自分の特技を見つけて変わっていくのがおもしろい。元気がなかった子

るようになる、先生が彼のことを一番弟子と呼ぶようになったのです。家で料理をやると両親がほめてくれるので、偏食も直ったそうです。街で地域の人と会ってもあいさつしなかった子供たちが、自分からあいさつするようになりました。

—今後の目標は？

全国に、放課後の学校活用モデルを広げていきたい。子供たちが安心して遊べる居場所が必要で、市民先生のおもしろさも同時に発信していきたいですね。

記者の一言

「テレビゲームより楽しく、学習塾より学べる放課後を」。アフタースクールが掲げる理念は、子供たちの心の豊かさを育もうというものだ。地域のひとと一緒に、子供たちが学び、遊ぶ、表現する。地域社会のつながりを深める大切な活動だと感じた。